

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.9

平成2年2月28日 発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室 気付

Sophia English Language Department Alumni Association

Message From Father Barry

Gerard S. Barry, S.J.

As this is being written we are entering the last decade of the twentieth century, the second year of Heisei, and the first part of the fourth decade of the English Language Department. The collapse of the Berlin Wall symbolized the dissolution of the Communist block and the realignment of forces in Eastern Europe. These events took place with dramatic suddenness and reminded many that human affairs are characterized more by change than stability.

At Sophia U there were no such dramatic sudden changes, but nevertheless there were changes. First of all, at the university level, Prof. Tsuchida (土田将雄) was re-elected president of Sophia for the next three years. On the English Language Department level, on 13 December, Professor Matsuo Kazuyuki (松尾式之) was elected department chairman. He will replace Professor Kusunose Junzo (楠瀬淳三) 1 April, 1990. Prof. Kusunose was chairman of the department for two terms of two years each.

Other changes: Fr. Lex Byrne retires from the department as of 31 March 1990. He will be replaced by Mrs. Kumi Lacktorin. Prof. Arnold Falvo and Prof. Roger Finch are retiring from the department and will be replaced by Ms. Amy Rita Lewis and Rev. Michael Jacques, S.M. Rev. William King, S.J., (St. Joseph's College, Philadelphia) has

joined the department from October 1989 till January 1991 as visiting professor of history.

Presently Professors Kusafuka (草深武) and Thomas Michael Milward are on sabbatical. Both will return for classes that begin 1 April this year. Beginning their sabbatical year on that same date will be Professors Kusunose and Graziano.

Ms. Honda Mie (本田三恵), who has been secretary to the Department for the past five years, has gone to California with her family. She has been replaced by Ms. Kanemitsu Miyo (金光美代), formerly of Gakujibu.



Also worth of note is that Prof. Sugawara Tsutomu (菅原 勉) has served as vice-president in charge of Student Affairs for the past three years. Rev. Donal Doyle is assistant to the president of the University (学長補佐).

In other department related activities, Prof. Matsuo continues to head the American Studies Program. The program has become better organized over the past two years. Student registration in the courses offered has increased indicating that student interest has gone up. Perhaps area studies could be one of the new frontiers for the department.

Prof. Yoshida Kensaku (吉田研作), whom you may have seen on his NHK English Conversation program, continues to direct ASTE, the organization for department graduates who have become teachers. Two years ago ASTE published Fr. Forbes' *Pronunciation Workbook*

and expects to publish a companion volume, *Listening Workbook*, soon. Fr. Nissel and Barry are cooperating with ASTE as it works on a high school conversation and listening comprehension text which it is hoped will win *Mombusho* approval. The publisher of all these texts is Buneido (文英堂).

The faculty and staff of the Department extend belated New Year's greetings to all of the graduates and hope that many of you will have an opportunity to drop by for a visit during 1990. Visits by graduates are most welcome. By telling us of your work and activities you supply that vital feedback without which teaching and academic research become sterile. So if you are in the neighborhood of Yotsuya, stop by the fifth floor of Sophia's Building # 10 for a chat.

上智大学アメリカ・カナダ研究所

上智大学教授 松尾 弑之



この研究所は1987年に設立されました。「研究所」というのは、制度上の用語でもあり、「センター」などと異なり、正式に文部省に届け出をして学術研究を展開する学長直属の研究組織です。

学長直属ですからここで紹介するまでもないと思われるかも知れませんが、そうではありません。もともと英語科と深い関係があるのです。

研究所の由来：故メイソン神父が英語科の学生のために約2,000冊のアメリカ関係の本を集めておられました。その図書のコレクションを「アメリカ・センター」と称していましたが、もっと蔵書をふやすと共に、ここを中心に意味のあるアメリカ研究を展開したいという気運が学科内でも出てきました。学生からも、大学というからには専門的なアメリカ研究をしたいという声が強まり、これを受ける形で大学当局が

「カナダ・センター」と「アメリカ・センター」を併合して研究所が生まれました。由来を記念し、メイソン神父への思い出を込めて、すべての蔵書に「この本はメイソン神父を記念し……」というラベルがはってあります。

研究所の活動：英語科、英文科、国際関係論の先生たちを中心に活動が始まりましたが、現在のところ(1)共同研究をおこなって研究体制を強化していく、(2)学術誌を発刊して研究のセンターとなる、(3)蔵書をさらに充実して(現在1万冊)学生や社会一般への情報サービスを強化することに重点をおいています。共同研究はアメリカ、カナダ、日本を含む太平洋圏の文化、政治、経済の交流の歴史を探るもので、今年から三菱財団の助成が年間300万円つきました。

(2)の学術誌は『The Journal of American and Canadian Studies』というのを年2回発刊しており(5月に第5号刊行)、論文が英文であることもあって、もはや全世界の研究者から注目されています。ソ連科学アカデミーや米国務省、米国会図書館等も定期購読者です。しか

も、アメリカ議会の下部組織である日米友好基金から去年は800万円、今年は350万円の助成を受けています。

学内外の反応：日本アメリカ学会等の日本の研究者集団からは、大きな期待が寄せられており、「上智なら何かやりそう」というふんいきがますます強まっています。手始めにアメリカ学会から「アメリカ研究所のデータベースをつくるように」要請を受けており、実現にむけて努力中ですが、完成すればすべての研究者（や研究者のタマゴ）の情報が上智を中心にして流れることとなります。

英語科の学生のあいだにも、アメリカの研究を本格的におこなおうとする者が出てきており、例えば88年度の卒業論文としてレベルの極めて高いものがアメリカ関係で4本も提出されています。研究所からの本の貸し出しも1日に100件を越えており、学生が研究所内で勉強したり討議する姿もごく普通のことであり、研究所は

一種の「たまり場所」もしくは「居場所」となっています。

研究所の今後：研究体制をさらに充実するのは当然としても、「たまり場所」としての機能をさらに広げて、卒業生、外国の研究者、産業や政府の関係者を含む幅広い知的なフォーラムの形成をビジョンとして持っています。そして、このような知的な人間の輪からカタヒジはらない自然体でしかも現実世界に即した新しいアメリカ学が生まれることを期待しています。

英語科卒業生にお願い：コーヒーぐらいは出ますので、気軽にお立ち寄りください。近着のアメリカやカナダの雑誌約90種類をそろえていますし、時々開催する講演会のご案内ぐらいは差しあげるようにします。そして何なりとアドバイスをいただいたり、現役の学生との交流を持っていたいただければ、学生や教師にとって大いに参考になります。

（1990年4月1日より英語学科長に就任）

『英語学科同窓会・会長就任にあたって』

昭和39年卒 関 浩一

図らずも昨年11月のSELDA総会に於て3期目の会長に選ばれてしまいました。10年以上に亙る海外生活の間、母校とも疎遠になりがちでしたが、鈴木前会長に「あまり良い学生ではなかったのに卒業させてもらったのだから恩返しをしろ」と説得され、微力ながら引き受ける事に致しました。

過去6年の間SELDAの基礎作りと運営に努力された前会長ならびに各委員の諸氏には心から感謝致します。これまでに築かれた基盤をベースに上智大学英語学科同窓会を更に発展させ、大学の英語学科とも連絡を密にしながら現役の学生諸君をも含めた同窓の広い交流の場を作りたいと考えます。

目下、常任委員をはじめ各委員の候補選びと就任の依頼をすすめている段階ですが、3月に改選される各卒業年度から選出される幹事会にも会員諸氏の積極的な参加をお願い致します。

大学の英語学科も創設32年目に入り、学内外

の諸環境の変化に伴い多くの問題を抱えているとも伝え聞きます。英語学科同窓会としても出来る限り学科に対する協力を図りたいと考えます。

当然の事ながら、同窓会の運営は会員諸氏が収める会費と会員のボランティア活動で成り立っています。会員諸氏の積極的な参加と一層のご支援をお願い致します。



新会長 関氏(左)と前会長 鈴木氏

<卒業生便り>



サンデースポーツスペシャルで活躍中

NHKアナウンサー

昭和 63 年卒 道傳愛子



NHKに入局して半年の時にスポーツ番組を担当し、それから1年余りがたった。日曜が勤務となるため2年前までの学生生活とはずいぶん違った生活パターンになってしまったが、仕事をしながら英語学科に学んだ日々を思い出すこと度々である。

仕事をするなかで、語学力は『強い武器』だといわれるが果たしてそうだったか。国外の競技会での取材、プロ野球選手へのインタビュー、国内の国際的な大会での取材交渉——いずれの場合もそこに存在する外国人と、多くの場合、英語で意思の疎通をはかることが当然のこととして要求された。大上段に振りかぶって『武器』と言ってられるようなゆとりはなく、まさにお箸やナイフとフォークと同じように、何物かをつかむ『道具』としての言葉がそこにはあった。

英語学科では、通訳、翻訳に相当な魅力を感じて勉強した。たとえば翻訳——教えて頂いた様々なことを翻訳スーパーを作る作業のなかで

思い起す。限られた字数に理解したことをどれだけ込められるか。さらに今は取材者として現場に立ち会ったうえで、人物が発した『思い』を自分の中を通して『思い』として表現していくごとに、それが商品として放送に出るということの怖さも感じながらも、充実感を感じる。

そして通訳……話して伝えること、これは放送の仕事に興味を持つきっかけともなった。英語にしる日本語にしる、どれだけわかりやすい言葉でわかりやすく伝えられるかを意識すること、メモをとる、すなわち内容を抽象化してつかむこと、そして冷汗をながしながらも実践の場で挑戦する機会を与えて頂いたことで(心臓も)ずいぶん鍛えられたように思う。でもマイクに向かったとたん絶句してしまう悪夢からはなかなか解放されない。

英語学科はとうに卒業してしまった。しかし英語学科で教えて頂いたことから、これからも卒業しないのだと感じる毎日である。

石油業からプロ野球への転職について

オリックス・ブレーブス常務取締役球団本部長

昭和 34 年卒 井篁重慶



今回、上智卒業いらい29年間勤務した丸善石油からオリックス・ブレーブスへ転職した事に関し多くの方々から、どうして?とか、よく思いきったな、とかいろいろ言われましたが、自

分としてはそんなに特別思いきった事ではありませんでした。

私は数年前から企業の変換の速さに気付き、これからは日本でも企業の方が終身雇用は出来

なくなるのに反し人間の寿命はどんどん伸びているので、これからは転職のチャンスをつねに狙っておくべきであるし、自分が29年前にこれからは石油の時代だと思い丸善石油に就職したが、その石油の時代も終わりに近づき、これから日本で一番伸びる分野はレジャー部門のような気がしていましたので、自分の大好きなプロ野球の仕事であれば何も迷うことはありませんでした。

このような感じで、昨年の5月からオリックス・ブレーブスで仕事を始めましたが、この世界はまったく今までと違い興行の世界ですから、いろいろと勝手が違います。

暮れに選手の契約更新をしましたが、自分が一言いうと、29年間の退職金と同じか、それ以上の金額の上げ下げの話をしているわけですか



上智の智がシアトルに生きる

公認会計士

昭和45年卒 H. Peter Kasama

After attending Sophia University from 1966 to 1968, I came to this beautiful city of Seattle in the northwest corner of the United States. It was love at first sight twenty years ago when I first arrived, and my love for Seattle today is far from being on the wane.

In the late 60's Seattle University provided me with an environment conducive to studying. I received my bachelor's and master's degrees in accounting from Seattle University and started my business career with Rainier Bank as a management trainee for the International Banking Department. Subsequently, I was recruited to join the international accounting and consulting firm of Ernst & Whinney in Seattle.

In 1978, I became a citizen of the United States and a member of the country where "all men are created equal." The United States is the biggest country on earth, not in terms of her size or power, but in the sense that each

ら、これはまったく今までとは別世界です。しかしオーナーの理解のもと自分の好きな仕事が自由にできる今の新しい仕事には満足していません。

終わりに今回の事で持つべきは良き友人という事をつくづく感じました事をソフィアンの皆様にご報告させていただきます。それは、今回の転職のきっかけを作ってくれた級友の木村君、オリックスに転職後、さっそく講演会を開いてくれた、永江君、すぐに東京で悪友を集めてくれた小林君等、多くの友人に今回、励まされ助けられました。改めてこれらの諸兄にお礼を述べると共に、ソフィアンの皆様、オリックス・ブレーブスにご声援の程よろしく願っています。

citizen enjoys more freedom here than anywhere else in the world. This democracy is costing us quite a bit, and we must learn that true freedom cannot be achieved without assuming responsibilities.

When I left Ernst & Whinney in 1979, I acquired one of its clients' business through a leveraged buy out and thus became involved in the highway construction business. It was quite an accomplishment for me to own and operate a 5 million dollar business at the age of 33 after starting from scratch on foreign soil.

While I was learning the ins and outs of running my own business, I created the public accounting firm of Kasama & Company. Initially, my practice was limited to providing auditing services to Ernst & Whinney clients, but today it has grown to a full-fledged CPA firm providing a wide range of services to primarily Japanese

businesses. In addition to the growing needs of my existing clients in accounting and tax services, I also recognized an important development by offering investment advisory services to both American and Japanese businesses.

I consider myself fortunate, not because of the material wealth I have accumulated over the years, but because I find a peace in myself with the

confidence that I can start all over again even if I lose it all. My experiences at Sophia have provided the basis for my success: building tenacity and determination to attain goals. I firmly believe that Sophia University is truly the best place to acquire an education for those individuals who have an international outlook. I am proud to be Sophian.



サンディエゴからこんにちは

ハムステッド商業不動産管理運営会社副社長
加州公認投資コンサルタント

昭和45年卒 長瀬 順太郎



流れ流れてサンディエゴ

上智英語科在学中からデキの悪かった長瀬です。お元気ですか皆様？ '70卒業以来フラフラしました経歴を紹介させて戴きますと、卒業時捨てていただいた広告業マックオンエリクソン博報堂を若気のイタリで辞め、在学中私と浮き名を流したホール嬢（'70英語科卒生は覚えているはず）、その当時フォーヴィス夫人で一粒種のウィリー君とご家族一緒にお住みのミズーラ・モンタナへ渡米が'74年。'75年に新聞学科を卒業、地元モンタナ娘と結婚はしたものの職がなく、コリャ文化系はアカンと悟り女房殿のお里にあるモンタナ州立理工科大エンジニア科へ入学し、死にもの狂いで勉強し卒業したのが'80年。

当時石炭も金も不況で鉱山技師（ヤマ師？）の仕事見つけれず、タマホークとかいうおそろしいミサイル製造業のゼネラル・ダイナミクスへ就職、サンディエゴへ移住。5年間ご厄介になりました（兵站技師部所属でしたが今もって何をやってた部か皆目無知）、部長と喧嘩してクビ。その5年間のうち、最初の女房に死にわかれ、筆舌尽しがたい快樂のすえ現在の女房様と2度目の結婚。42のオッサン面していまだに子供ゼロ。

拾ってくれたサンディエゴ

職安通いの私からの「カネオクレ」の電報以上に両親を涙せしめたのが「ボク、不動産屋（イコールやくざ）の丁稚にナル！」という総領の甚六の言葉。「お前それだけはなってくれるな」という両親の嘆願を足蹴にし、現在シッココとサンディエゴで地上げ屋稼業。

宣伝：現在サンフランシスコを抜いてカリフォルニア第2の都市・地中海気候のサンディエゴへは日本の銀行・企業及び日本人の流入は甚大で、日本語しか出来ない日本人でも快適に暮らせる住みよさ。私の専門にしている収益不動産（ビル・RETAIL・アパート）も高い利廻り（7.5%~9%）、1平方尺の値段も安く（ロス、オレンジ郡の半値）でアメリカでも寒い所からの投資家（N・Y、CHICAGO等）に人気を呼んでおり、日本からのお客様は節税が出来る・サンディエゴは割り安だ・南加の将来を信じると様々な好意見。デルタ航空がサンディエゴ—成田間直行便を申請中だとか、これから伸びる街です。お問い合わせは619-454-8400、FAX 454-8367。

SELDAA第2回定例総会及びSELDAAパーティー報告

昨年11月25日(土)、上智会館第六会議室にて「SELDAA第2回定例総会」が、卒業生約70名の参加のもと開かれました。

SELDAA会長鈴木達也さん(38年卒)より、1989年度活動報告が行われた後、第三期(1990年1月1日-1992年12月31日)の会長の選任が行なわれ、関浩一さん(39年卒)が満場一致で選出されました。最後に、草深委員(会計担当)込山雅弘さん(50年卒)より、1989年度の会費収入が順調である旨報告され閉会しました。

続いて、同じ場所にて、「1989年度 SELDAAパーティー」が行われました。

鈴木前会長、関新会長の挨拶の後、ニッセル先生の音頭で乾杯し、歓談に入りました。英語学科最初の卒業生32年卒から平成元年3月卒の新卒迄のほぼ全学年の卒業生が年齢の差を忘れ

終始なごやかな雰囲気ではパーティーは進行しました。

しめくりに、グリークラブのO・Bでもある京極寿男さん(40年卒)の音頭で上智大学校歌を全員が斉唱し、来年度のパーティーでの再会を約し散会となりました。



次回の SELDAAパーティーでの再会を約して

英語学科同窓会 昭和63年度収支決算報告書

(1988年4月1日～1989年3月31日)

科	目	予 算	実 績	摘 要
収 入	1. 前期よりの繰越	1,359,166	1,359,166	
	2. 入 会 金	100,000	151,000	151人
	3. 会 費	1,000,000	1,336,000	668人
	4. 受 取 利 息	25,000	32,612	
	5. 雑 収 入	0	49,240	パーティー
	合 計	2,484,166	2,928,018	
支 出	1. 名簿作成積立金	450,000	450,000	
	2. 名簿作成準備金	256,000	110,230	
	3. 会 報	250,000	126,000	
	4. 郵 送 料	259,000	199,880	
	5. パーティー補助金	150,000	0	
	6. 女性セミナー	70,000	50,000	
	7. 常任委員会運営費	50,000	45,200	
	8. 事務局運営費	200,000	84,500	
	9. 幹事会運営費	40,000	10,530	
	10. SELF活動援助金	50,000	50,000	
	11. 予 備 費	709,166	0	
	合 計	2,484,166	1,126,340	
	差引収支		1,801,678	

英語学科卒業生就職先リスト（1989年3月現在）

銀行証券	男21	女25	計46
日債銀	1	1	
第一勧銀	3	1	
三和銀行	1	1	
住友銀行	2	1	
チェース・マンハッタン	2	0	
バンク・オブ・アメリカ	1	0	
埼玉銀行	1	0	
日本長期信用銀行	1	0	
横浜銀行	1	0	
東海銀行	1	2	
三菱信託銀行	1	0	
山一証券	1	0	
野村証券	1	1	
日本興業銀行	0	5	
住友信託銀行	0	2	
東京銀行	0	1	
三菱銀行	0	1	
千葉銀行	0	1	
農村中金	0	1	
バクレーズ・バンク	0	1	
その他	2	6	

損・生保	男4	女0	計4
東京海上火災	1	0	
日動火災	1	0	
日新火災	1	0	
エクィタブル生保	1	0	

商社	男5	女0	計5
住商	2	0	
丸紅	1	0	
三井物産	1	0	
三菱商事	1	0	

製造業・運輸	男24	女14	計38
日本IBM	3	1	
日立製作所	1	3	
東芝	1	2	
ソニー	1	1	
日本ビクター	3	0	
リコー	1	0	
富士通	1	0	
三菱電機	1	0	
新日鉄	1	0	
中国電力	1	0	
松下電器産業	1	0	
大阪商船	1	0	
日本通運	1	0	

旭化成	1	0
日本電気	2	0
大日本印刷	1	0
全日空	0	2
日本航空	0	2
日産自動車	0	1
トッパンムーア	0	1
その他	3	1

マスコミ・宣伝	男5	女13	計18
日本放送協会	2	2	
テレビ朝日	0	2	
日本テレビ	0	1	
フジテレビ	0	1	
中京テレビ	0	1	
ジャパンタイムズ	2	0	
共同通信	0	1	
日本経済新聞	1	0	
電通	0	3	
博報堂	0	1	
旭通	0	1	

学校	男5	女1	計6
松下政経塾	1	1	
大妻多摩高校	1	0	
三重海城高校	1	0	
栃木県高校	1	0	
群馬県高校	1	0	

その他	男11	女12	計23
アーサーアンダーセン			
アンドカンパニー	1	0	
森総合法律事務所	0	1	
日本ユニシス	0	1	
警視庁職員	0	1	
リクルートコスモス	0	1	
QUICK	0	1	
友常・本村法律事務所	0	1	
日本翻訳センター	0	1	
JETRO	1	0	
JCB	1	0	
日本電信電話	1	1	
NTTデータ通信	1	0	
CBSソニー	1	0	
日本交通公社	1	0	
住友不動産	1	0	
進学	1	0	
その他	3	4	

参考：89年3月現在全学就職内定先状況は、メーカー30%、前年比3%増、金融証券29.7%、2.7%減、情報・サービス2%増、マスコミ、運輸、若干減。

英語学科卒業生の皆様へ：

各地での個人・グループの活動や近況から住所変更まで、お便りお待ちしております。

編集委員：鈴木達也、犬飼研介、鷹野富司、斎藤敬子